
NPO法人日本海洋深層水協会メールマガジン 第1号 (2008年6月30日)

メールマガジンの発行のごあいさつ

NPO法人日本海洋深層水協会
メルマガ編集チーム

このたび、当協会では、海洋深層水利用の最新動向や、海洋深層水に係る各地のイベントや製品開発などの話題を、会員を始めとする一般の皆様にも、より積極的にお知らせするために、メールマガジンを発行することになりました。当面は2ヶ月に1回の発行を予定しておりますが、発行体制が整いましたときには月1回の発行を目指します。もちろん無料で、どなたでもご利用いただけますので、配信をご希望の方は、当協会HPの“メールマガジンの申込み”

http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm

からお申し込みください。

会員向けには、同時に海洋深層水関連ニュースも配信いたします。

目次

- <協会制作記事> 海洋深層水に動脈硬化の抑制効果
- <ニュースから> 最近2カ月の海洋深層水関連ニュース (会員向け)

<記事>

海洋深層水が動脈硬化を抑えるの？－注目すべき実証実験結果

平成17年の日本人の死因は第1位悪性新生物(ガン)30.1%、第2位心疾患(高血圧症を除く)16.0%、第3位脳血管疾患(くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞など)12.3%ですが、2位と3位の疾患は計28.3%で、両疾患とも動脈硬化と関係があります。

ところで今年の2月23日(土)当協会が東京で開催した「第4回海洋深層水フォーラム」において、海洋深層水の動脈硬化の抑止効果について科学的に実証する、我々関係者にとって嬉しい実験について講演がありました。

海洋深層水の何が有効なのか？ 答えは、聞きなれない言葉ですが、「難分解性溶存有機物」という有機物の一種なのです。

では演題の「海洋深層水の脱塩水を使用したミネラルウォーターの投与による抗動脈硬化作用の実証実験」について、高知大学医学部の笹栗志朗教授の講演の概要をご紹介します《共同研究者は高知県室戸市の浅川自然食品工業(浅川良住社長)、東京大学海洋研究所の小川浩史教授》。

笹栗教授の実験開始の動機は、高知県室戸市の海洋深層水飲料を、日常的に飲んでいる脳梗塞患者の中に、動脈硬化の進行に大きく関係する血小板の凝集能が、抑制されることに着目したのです。2001年夏からウサギをつかい、動物実験を開始したのです。

[実験の方法及び結果]

動脈硬化を誘発するコレステロールを多く含む餌を与えたウサギに4週間、海洋深層水の含有成分を多く含む浅川食品工業製の飲料水、その他の国内外の海洋深層水飲料水、水道水及び外国製ミネラルウォーターを与えた。

その結果、浅川食品工業製の飲料水だけに動脈硬化を抑制する作用を確認した。

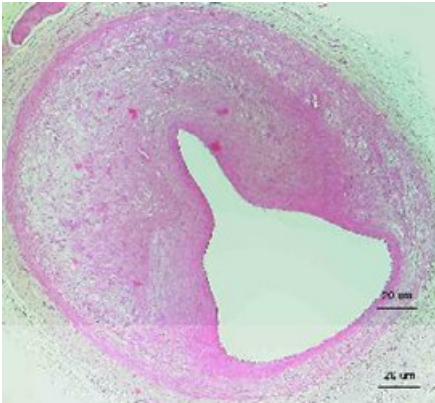
この結果を受け、海洋深層水の含有成分を無機物(ミネラル)と有機物に分離し、再びウサギによる実験をしたところ、有機物を含む水を与えたウサギだけに大きな効果が認められた。

有機物の化学構造式を調べたところ、「難分解性溶存有機物」の中に、血小板の凝集能を抑える薬剤「アスピリン」や「コレステロール」の低下作用のある「ロバスタチン」と似た構造を持つ有機物が含まれていることが判明した。

この難分解性溶存有機物と称されるさまざまな有機物は表層水にも含まれるが、実験では表層水での効果は認められなかった。

笹栗教授は「海洋深層水の難分解性溶存有機物の濃度は低く、そのままでは薬剤と比べると効果は非常に弱いですが、無尽蔵にある海洋深層水という自然物から得られる資源であることに大きな意義がある」と述べ、さらに「海洋深層水飲料水を日常的に飲むことにより、動脈硬化や心臓疾患、脳梗塞などの予防、術後管理などに応用できる可能性がある」。これからは「さらに効果の検証をしたい」とのことでした。

海洋深層水に含有される有機物の抗動脈硬化作用



写真左
水道水を与えたウサギの血管、
動脈硬化が進行している。



写真右
有機物を含む水を与えたウサギの血管、
動脈硬化がほとんど進行していない。

(参考資料)

総務省統計局 日本の統計/主要死因別死亡者数

高知新聞 2008年2月13日記事

独立行政法人 国立環境研究所 環境儀 NO.13 JULY 2004

(OKUMURA)

<ニュースから> 最近2カ月の海洋深層水関連ニュース

■ 6月12日は「久米島海洋深層水の日」 取水深度612メートルにちなみ
久米島海洋深層水のブランド力の強化を図ろうと、同町などが12日、「久米島海洋深層水の日」を宣言。県庁での記者会見で、平良朝幸町長は「無尽蔵で優位性の高い海洋深層水の事業化推進とブランド力を高め、国内外での販路を拡大していきたい」と意気込みを語った。

(2008年6月13日 沖縄タイムス)

■ 久米島海洋深層水、統一マークでブランド力の強化

久米島町と久米島海洋深層水連絡協議会(大道敦会長)は、6月12日、久米島海洋深層水統一ブランドマークを発表。同連絡協議会の会員18事業者の商品パッケージすべてに、海水の環流をイメージした外縁と、その一部を活用していることを示す水滴をあしらった同一マークを使用する。ブランドメッセージを統一することで、商品の信頼や安心感、付加価値を高めたいとしている。

(2008年6月13日 沖縄タイムス)

■海洋深層水で作ったせっけん販売 尾鷲の主婦グループ

尾鷲市古江町の主婦グループ「アクアサポート古江」（中森末子会長）が、尾鷲海洋深層水を使って「環境にE（イー）せっけん」を作り、販売している。

グループは地区に建設された取水施設・アクアステーションを支援しようと2006年に結成。60～70歳代の主婦19人で、料理教室など深層水にまつわるイベントを開いている。中森会長は「きれいな海あつての深層水。グループは高齢化していますが、環境保護のために頑張ってます」とPRしている。

（2008年6月17日 中日新聞）

■アカザエビ：駿河湾深層水スキャンピ、ブランド食材に

静岡県水産技術研究所は、焼津漁協と共同で飼育しているアカザエビ「駿河湾深層水スキャンピ」をブランド食材に育てようと、6日から長泉町のレストランで、実際の料理として出すマーケティング調査を始めた。

同研究所では海洋深層水で世界初の卵の人工ふ化に成功しており、将来的に安定供給できる可能性も広がっている。

（2008年6月7日 毎日新聞）

■塩をかけてアイスクリームを

三重県尾鷲市向井の温浴施設「夢古道の湯」で、海洋深層水からとった塩をかけて食べるソフトクリームが、入浴客の人気を集めている。1個280円。

「しお学舎の塩さらさらタイプ」を自由に振りかける。甘みが増すと好評で休日は100個ほど売れるという。

（2008年5月13日 中日新聞）

■室戸市、バーデハウスへ財政支援

室戸市室戸岬町の海洋深層水体験施設「バーデハウス室戸」が19年度、約4,500万円の赤字になり、小松市長は9日、市議会臨時議会で財政支援する方針を明らかにした。開業した18年度（9ヶ月）も赤字となっており、小松市長は「2年連続赤字だが、観光効果などを考慮すると、市が一定額を負担することもやむを得ない」と説明。

（2008年5月10日 高知新聞）

■黒色の食塩を販売

北海道八雲町の熊石海洋深層水とイカスミから黒い食塩の商品化に成功した。

札幌市の「恵美寿や」が、道立工業技術センターの助言を得て八雲町の「熊石深層水」に委託して製造したもの。

黒色であるため盛り付けのアクセントやかけ過ぎにも抑制効果が期待されている。定価は40g入り750円、初回生産分720本のみ50g入りを750円で販売。

（2008年4月25日 北海道新聞）

■室戸深層水商品が148億円の売り上げ。

室戸深層水を利用した製品の2007年の売り上げは全体で昨年比9%増と好調だった。部門別ではミネラルウォーターが27%増の62億2千7百万円、豆腐・納豆類が6%増、化粧品やウエットティッシュなど非食品が6%増、一方、酒や醤油などはやや減少した。

(2008年4月18日 高知新聞)

■佐渡市が海洋深層水取水・分水施設の運用に指定管理者制度を導入

佐渡市は、海洋深層水の取水・分水施設の運用に指定管理者制度を導入し、4月から管理運営を「新潟県佐渡海洋深層水N I S A C O」（平辰社長、佐渡市多田）に委ねた。民間ならではのアイデアや関連産業とのつながりを生かして新しい活用法に道を開くことが期待されている。

同社では、早速、観光客向けに、分水施設内でペットボトル入り海洋深層水の販売を始めたほか、県内の温泉施設とタイアップしたキャンペーンを行ない、食塩や味噌などの加工食品についても県内外に向けた販売促進を進める。

(2008年4月10日 読売新聞)

NPO法人日本海洋深層水協会メールマガジン

※このe-mailによる情報サービスは、当協会の会員および一般の配信希望者を対象に、全国に配信しています。

メルマガ配信のお申し込み、および、メルマガ停止のお申込みは、こちらから。

http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm
